



らいと・れーる

2022
春
vol.19

発行/2022年6月 発行者/次世代路面電車による枚方のまちづくりを推進する会(枚方LRT推進会)
(URL)<http://www.techno-net.com/~lrt-hrkt/> (Twitter) @hirakata_lrt (facebook) <https://www.facebook.com/hirakata.lrt>

特別講演会を開催しました

2019年以來、3年ぶりとなる総会・特別講演会を5月22日(日)、ラポールひらかたにて開催しました。特別講演会は「日本橋にトラムを通してにぎわいを進める会」の会長を務める中村俊策氏をお招きし、「大阪・日本橋トラム構想の実現に向けて～日本橋トラムの会の7年間のまちづくり～」を掲題とした内容で、これまでの活動をご紹介いただきました。

2015年に発表された「グランドデザイン・大阪」という構想にも出てくるLRT。これをトラムと呼び、日本橋に通そう！と活動が始まりました。まちづくりの先駆者である講師を招いて勉強会を開いたり、富山や岡山、鹿児島などに視察へ赴き現地の活動団体と交流を深めます。そして日本橋で実際に働いている人や住民を交えてワークショップを開催して自由な意見交換を進めたり、まちづくりの研究を進めている大学生に日本橋を見て回ってもらって意見を求めるなど、地に足を



つけた活動が展開されます。2020年来のコロナ禍に入ってからには制約の多い活動状況ではありながらも、継続している活動が少しずつでも前進していることを糧として、今後の展開を見据えている状況でありました。

およそ90分の講演でしたが、時間を感じさせない話術と、深くかつ具体的な活動内容に、会場はとても充実した空気感で満たされ、地元に関わるだけではなく腰を据えて入りこむ姿勢が肝要であることを改めて実感した内容でした。

LRTがまず必要であるという視点よりも、LRT“を”必要とするまちづくり。いや、LRT“が”必要となるまちづくりを進めるためには、どうするのがよいのか。沿線住民をはじめとする地元に関わりのある人々に対して公共交通の重要性を啓蒙することはもちろんのこと、「まちのにぎわい」が周辺にいる人々に対して「ここに来てみたい」「あそこが面白そう」「次はあの人とまた訪れたい」と感じさせることができることを、あまねく広めていくことも肝要。これからも必要なこと、それは「なかまを増やす」「関係者への働きかけ」「まちの魅力づくり」。そして働く人(商店・施設の人)と住民(地域の人)との関係をしっかり育み、定着させること。これらを枚方でもできることから広めていきたいという想いを新たにした講演会でした。

